

4

牧柵点検、輪地切り、野焼き、管理道整備

- 実施主体 瀬田立野牧野農業協同組合（南阿蘇村）
- 実施場所 瀬田裏牧場
- 実施期間 平成27年4月～平成28年3月 通年



◇背景・ねらい

野焼き：牧野環境の維持のため、70名体制で約200町歩の野焼きを行う。

牧柵点検：5月1日からの放牧開始までに放牧牛の安全を確保するため、牧柵の点検、修理を行う。

道路整備：広大な牧野での所作業をより安全で効率よく行うために、年次計画を立てて行う。

◆実施概要

以下の通り、牧場維持管理作業を行った。

○牧柵点検（4月）14名

- ・放牧前の点検修理。過去に牧柵の不備で、放牧牛が脱柵し、近隣の牧草地に迷惑をかけたことがある。また、放牧牛の安全確保のため不備がないか点検し、補修している。

○輪地切り（10月）53名

- ・野焼きによる近接する山林への延焼を防止して、安全を確保するため、極めて重要な作業であり、特に念入りに行った。

○管理道の整備

①10月：補助、第一牧場他「洗堀」修理他

②12月：側溝整備 16名

- ・雨水による崩壊や洗堀が発生するため、補修整備は重要な作業である。

○野焼き（3月）70名

- ・牧場管理上、最も大切な作業であり、生命の危険を伴う極めて困難な作業であるが、予定通り実施できた。

◆実施体制

- ・野焼きにおける消防（東部、西部）団の協力は、安全確保に重要な要素となっている。特に、ジェット・シューターの威力は抜群。「消防団の支援なくして、野焼きはできません。」

◆成 果

○牧柵点検は、放牧農家の協力を得て、広大な牧場の全ての牧柵を点検することが出来、牛の安全、飼育に寄与することが出来た。

○輪地切りは、組合長を始めとする役員の積極的な参加を得て、危険箇所を完璧に輪地切りができたため、安心して野焼きができた。

◆実施者の感想

組合員の高齢化、放牧農家の跡継ぎ不足のため、牧場管理は年々難しくなっている。昨年度の野焼きは、ボランティアの応援を得ずに組合員と地元消防団の協力で無事に実施できたことは、大きな収穫であった。